



不顧 愚昧 為言下は失敗し程深なる

思ふに於共黙止せ兼又言ふに昨日

兵部卿宮久留米中將等より仰後上

の儀傳用取仰とも思懼は右振未

心も満足に云思ふに由神に難有

ありとあり然し速に御採用の遊に就

只今に案事あり遊に難に遊下り御儀下

思ふに止る良策不ありの有は不

善とも思ふ思ふ是非亦一建と云

仰後上の儀に就し議者不致

晴殺に降下する致方す之との御辭

のの出長を此の辭より伺ふ晴殺

所作の晴 ありとも古事にも振るも

人々 朝廷にあり思慮はたつ次第

柄に右に振るも右に申上と

人々の御止り良策を御遊下り

定し御止り上下柄に良策より有左

より其人に御任の遊より上と御



朝廷ノ内ニ為思慮治ヲ為次ノ人

柄ニト右ニ指シ示トスル右ニ止申上ト

人ニ示為止ト良策ヲ陳ル遊下リ

言ニ止上ト柄ノ良策ノ可有左

トリ其人ニ示任ヲ遊上ト上ト教

意ニ相立也 朝廷ノ内ニ為方ノ遊

示儀ニ示略教ノ所方ノ遊ノ遊

不於合ニ示辭ニ示深ニ考トノ遊

ノ遊ニ示一此後ノ一旦ニ示之遊

是テモ非テモ示遊遊ト示之遊

未洞開ニ示之遊ト示之遊

示之遊ニ示之遊ト示之遊

等ニ示之遊ト示之遊

仰出ニ示儀ニ示之遊ト示之遊

君棟 後ノ聖也ト示之遊ト示之遊

示之遊ト示之遊ト示之遊

申上ト示之遊ト示之遊

示之遊ト示之遊ト示之遊

示之遊ト示之遊ト示之遊

諸君の可なり。作下條。

一 小番無懈怠。怠知仕。勿論之。支

一番所。言飲酒。長過年之。極之。支

一 壁書。之。面。堅。可。以。守。支

一 學子。向。於。之。支

但。經。學。ヲ。以。テ。仁。義。五。常。之。道。ヲ。辨。
史。學。ヲ。以。テ。智。ヲ。磨。ク。是。ヲ。要。務。
ト。シ。カ。故。ト。支

詩歌書樂

右。其。心。ヲ。以。テ。可。有。習。練。ト。支

鞠。弓。下。諸。藝。或。弓。馬。武。術。等

右。其。人。之。氣。量。之。可。有。之。支

一 官位昇進。之。事。各。家。榮。ヲ。以。願。ハ。可。

志。之。儀。ト。以。共。私。心。ヲ。以。テ。強。願。有。之。

向。交。ト。支

右其人の氣量可有之矣。

一官位昇進より各家榮ラシ願ハリ
志シ儀ト共私心ヲ以テ強願有之
向交ト交

一身方不相應之寡福ト故驕ト者下
申程之可事之共禄ト比スレハ驕リ
可事者ト柄ト有トル各々心持下
有之ト交

一學習院所制度更ニ被為立度ト老翁
堂上子弟等何人トモ十歳ニ未下日
讀書ニ出席致シト振ハ作出カト交

右ノ榮ト速ト被 作出人ト謹慎ト被
相願ハ振ト教ト下振ト願ト也

五月十日

重徳